



コールラビ

肥大した茎を

利用する野菜

コールラビは地中海沿岸原産のアブラナ科野菜で、茎の基部が球形に肥大するので、別名を球茎甘藍(キウウケイカンラン)とも呼ばれます。キャベツから分化した野菜のため似た性質を持ちますが、キャベツより暑さや寒さに強く、作りやすい野菜です。

中間地の秋まきは、7月下旬～9月上旬に種まきし、9～12月に収穫します。春まきは3、4月にまいて、6、7月に収穫します。

【品種】 球の色が緑白の「ブランドデュー

図1 畑の準備

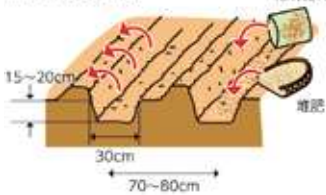


図2 種まき・苗作り



図3 植え付け

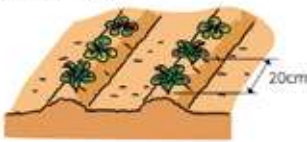


図4 追肥・土寄せ



図5 収穫



ク(タキイ種苗)、紫の「パープルデューク」(タキイ種苗)などがあります。

【畑の準備】 あらかじめ畑1平方m当たりにつき苦土石灰100gを土とよく混ぜておき、植え付け(または種まき)1週間前に畝幅70～80cm、深さ15～20cmの溝を掘ります。次に、この溝1m当たり化成肥料(NPK各成分10%程度)100gと堆肥1kg程度を施し、土を戻して畝を立てます(図1)。

【種まき・苗作り】 苗作りをするには、7・5～9cmポリポットに種を4、5粒まき、発芽後に適宜密生部を間引き、1本立ちにして本葉4、5枚まで育てます(図2)。強健な野菜なので畑にじかまきしても良いでしょう。この場合は種を2、3cm間隔にまいて、間引きながら最終株間を約20cmにします。

【植え付け】 本葉4、5枚の頃、株間を約20cmに植え付けます(図3)。このとき植え穴に十分水を注ぎ、植え傷みの少ないようにします。

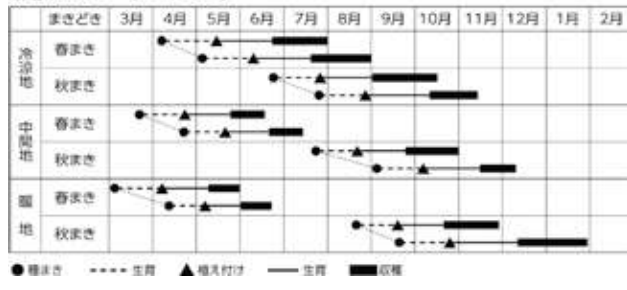
【追肥・土寄せ】 追肥は植え付け後20日

ごろ、株元に化成肥料を1株約10g施用し、土寄せします(図4)。2回目は球が肥大する頃に施用します。生育が進み、下葉が傷んでいたら切り落としても良いでしょう。

【病害虫の防除】 ヨトウムシ、コナガなどが多くので、登録農薬で駆除します。生育初期は、寒冷しやなどの防虫ネットでトンネル被覆し、害虫の被害を防ぐと良いでしょう。

【収穫】 球の直径が5～10cmのときに、株元から刈り取って収穫します(図5)。球が大きくなると肉質が堅くなります。堅い皮はむいて薄くスライスし、サラダなどにします。また、さいころ状に刻んで、スープ、ポトフなどでいただきます。 ※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

栽培カレンダー(コールラビ)

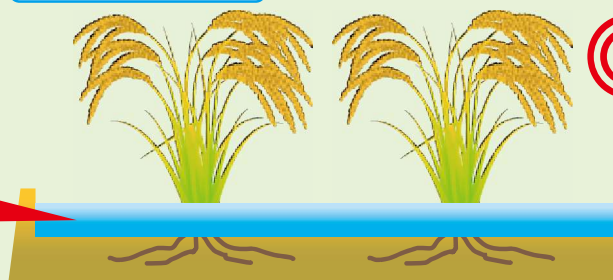


米の食品安全に対するリスク対策

～JAレーク伊吹 農産物安全対策協議会からのお知らせ～

カドミウムの吸収が活発となる出穂前後3週間は、
湛水管理で吸収抑制をしましょう!

湛水管理の状態



土壌がすべて水面につかっている状態